

令和7年度 学校経営報告書（職員による「自己評価」）

学校番号	44	学校名	静岡県立焼津水産高等学校	校長名	沼里 智彦
------	----	-----	--------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	「基礎的学力」、 「自己理解力」、 「将来設計力」、 「社会適応力」、 「危機管理能力」等を備えた 人材の育成	【教務課】 ・「授業が理解できた」と答える生徒8割以上 ・一日の家庭学習時間(平日)60分以上の生徒8割以上 ・到達度テストの単元正答率8割以上 ・月1回以上の小テストの実施	89.8% (昨年 85.1%) 全体 27.2% (昨年 21.5%) 1年生：28.2% →32.1% 2年生：15.9% →27.1% 3年生：16.1% →21.3% 正答率の向上が見られた。 SPI テストの導入により定着を図る	B	授業の内容が理解できると答えた生徒は89.8%で昨年より微増した。 家庭学習時間は昨年より微増だが、定着に課題が残る。特に、3年次の主体的に学びに向かうための働きかけを検証する必要がある。 スタディサプリの活用、学びの基礎診断の代替として SPI テストを導入している。目標は達成できなかったものの、正答率が向上した。
		【企画研修課】 ・公開授業週間を年2回以上 ・ICT活用等の校内研修を年2回	予定していた研修は実施できた。	A	校内研修の実施で一定の効果がでているが、今後も生成 AI をはじめ、ICT に関する研修の継続が必要である。
		【進路課】 ・全学年を対象に進路ガイダンスを年2回以上実施 ・全生徒を対象に進路希望調査と個別面談の実施 ・就職・進学者の追跡調査の実施と在校生への還元	ガイダンスは全学年2月及び1年9月、2年12月、3年7月に実施した。進路希望調査、面談も実施できた。追跡調査は実施中。	B	進路希望調査を反映させた進路指導ができた。進学については、高大連携をしている大学へも複数名の進学者がおり、実績をあげた。進学者の追跡調査は、進んでいない。
		【生徒課】 ・水高カードの発行指導枚数前年比-10% ・遅刻者数前年比-10% ・進んで挨拶ができる生徒9割以上	発行38枚 (昨年39枚) 遅刻者数増加 挨拶93.6% (昨年93.2%)	B	水高カードは前年と同じであった。遅刻・欠席数は増加している 挨拶については昨年並みであった。概ね目標を達成出来ている。

様式第3号

		<p>【各学科、保健課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習、授業における重大事故件数0件 ・学期ごとに施設・設備等の安全点検を実施 	<p>重大事故 発生件数0件。 学期毎、安全点検 実施済。</p>	A	<p>重大事故を防ぐことができた。施設、設備が一部老朽化している点が危惧されるが、これからも安全点検 を定期的に行うなど、引き続き安全教育を徹底 する。</p>
イ	<p>将来のスペシャリストとして、確かな知識と技能の定着、職業人としての「志」を育成</p>	<p>【各学科、進路課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生対象のインターンシップへの参加率100% ・地域を担う人材育成において企業との連携が図られている。 ・講師招請事業の実施（各科2回以上） ・進路実現100% ・学科関連企業等への就職・進学率 85%以上 	<p>各科とも目標をほぼ、達成できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海洋 55.7% ・食品 65.8% ・栽培 50.0% ・流情 42.4% 	B	<p>インターンシップの実施やデュアルシステムの利用で、関連の就職や進学を伸ばし、生徒の自己実現をサポートしたい。</p>
ウ	<p>地域の発展を見据えて、全国・世界に羽ばたくグローバル人材の育成</p>	<p>【教務課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短期海外留学等の派遣者数毎年1人以上 	<p>今年度はグループ4人で、ミクロネシアに留学した。</p>	A	<p>生徒は意欲的に活動、挑戦しようとしている。新たな取組についても積極的に支援していく。 来年度は5人計画中。</p>
エ	<p>「自己肯定感」の向上、「多様な価値観を共有」できる豊かな人間性を育む</p>	<p>【生徒課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動に加入する生徒の割合100% ・学校生活を通して「自分が成長した」と実感できる生徒8割以上 ・生徒による主体的な企画・運営が行われている ・社会貢献活動等に生徒が積極的に参加している 	<p>100%加入。 83.2% (昨年 80.9%)</p> <p>部活動等で海岸や海中の清掃を行った。</p>	B	<p>部活動加入・自己の成長については目標を達成できた。 今年度、髪型に関する校則を、生徒会を中心として改正した。 また、地域活動にも部活動を中心として取り組んだ。 自己肯定感の向上が図れる取り組みを増やしたい。</p>
<p>【図書課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒貸出件数3冊以上(年間一人平均) ・朝読書の推奨 ・図書委員会によるイベントの企画・開催年3回以上 		<p>1.7冊 週1回 年4回</p>	B	<p>新しい図書室になり、蔵書数が大幅に減った関係で貸出数が伸び悩んでいる。 企画イベントによる来館数の伸びはあるものの厳しい状態にあるが、生徒が本に親しむ機会を増やしたい。</p>	

オ	健康な心身の育成及び「自他の安全を守る」意識の醸成	【保健課】 <ul style="list-style-type: none"> ・保健だよりの発行年6回以上 ・薬学講座、熱中症予防講座の実施 	年8回発行。 薬学講座 熱中症予防講座 他実施。	A	保健だよりは8回発行。各講座については、感染症対策を意識し実施した。生徒自身が予防に取り組める環境を整えたい。
		【総務課】 <ul style="list-style-type: none"> ・校内の防災、津波避難訓練を年2回実施 ・「災害時に適切な行動がとれる」と答える生徒8割以上 	年2回実施。 90.2%。	A	毎回の防災訓練で、適切にテーマを設定して実施できた。また、適切な行動がとれる割合90.2%は高いものの、実際に発災した際に行動が発揮できるよう、これからも啓蒙活動を工夫したい。
		【相談室】 <ul style="list-style-type: none"> ・「気軽に相談できる教職員がいる」と答える生徒8割以上 ・担任、学年、保健室、相談室と連携したサポート会議の開催 ・スクールカウンセラーの活用、外部の専門機関との連携強化 	気軽に相談できる61.7% (昨年は59.5%) 担任・学年・保健室・保護者と協力して支援を行った。 SC、特別支援学校の先生に指導を受けた。	B	気軽に相談できる教職員がいる割合は約6割で微増、「全くいない」と答えた生徒は昨年の10.1%から11.2%へ微増した。特別な支援が必要な生徒については担任・学科・保健室・SC等と連携して専門機関につなげることができた。SCの力を生徒だけでなく保護者支援にも活用できた。
カ	学校経営基盤確立のための諸施策の推進	【各学科】 <ul style="list-style-type: none"> ・地域や異校種と積極的な交流ができています ・企業や大学等と連携した教育プログラムを開発している 	実習船の海外交流、大学・地元企業との連携、小中学校・焼津分校との交流、さかなセンターでの販売など、多くの交流・連携を実施した。	A	多くの交流・連携を実施しており、さらに多くのお声掛けもいただいている。今後も一層の充実を図っていくが、教員の多忙化にも注意が必要である。
		【教務課・総務課】 <ul style="list-style-type: none"> ・学校HP、学校公開、マスメディア等を活用した情報発信ができています ・SNS等を活用した保護者との連絡体制の研究、PTAの広報広聴活動が充実している 	パンフレットやチラシを作成。体験入学401人(昨年338人)オープンスクール223人C-learningを用いた連絡体制を構築できた。	A	体験入学の参加者増に加え、中学校向け説明会や個別相談にも対応した。PTA活動は、学校と保護者が程よい距離感で活動できているが、役員の担い手不足の解消や一層の活性化について検討と試行を進めたい。

		<p>【管理職】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法令順守、誇りと使命感の涵養が図られている ・組織全体で業務の効率化、働きやすい職場づくりに取り組んでいる 	<p>職員会議中にコンプライアンス研修を行った。職員用の掲示板を活用して、法令順守等、確認を重ねた。C-ラーニングの導入・活用等、学校全体で業務の効率化を進めた。</p>	<p>B</p>	<p>コンプライアンス事例を取り上げた研修を通じて、自身を振り返る機会を設けた。今後も不祥事根絶に取り組む。 ICT機器の有効用、働き方改革等について、次年度も組織全体で取り組んで行く。</p>
		<p>【事務室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適正で効率的な予算執行がなされている ・施設設備の定期点検、必要に応じた修繕がなされている 	<p>適正で効率的な予算執行ができた。 発見された危険個所を迅速に改修できた。</p>	<p>A</p>	<p>昨年度の反省を踏まえ、予算の適切な執行ができた。 老朽化した一部の施設の改修等に今後も取り組んでいく予定。</p>